

福島県立図書館
東日本大震災福島県復興ライブラリー

ブックガイド

No. 14 2015. 6. 18

■過去の災害

『天災と国防』

寺田寅彦／[著] 講談社 2011.6 519.9/㊦116

寺田寅彦は明治～昭和初期の物理学者で、本書には彼が執筆した論考・随筆の中から、主に災害について書かれたものがまとめられています。自然災害に対する人間の認識の甘さや過信についての指摘は現代の私たちにも当てはまり、東日本大震災より70年以上前に書かれたとは思えません。表題作にある文明と天災についての文章は今回の原発事故を思い起こさせ、科学と人類の未来についても考えさせられる本となっています。

■福島第一原発事故

『このさんねん 日々のブックレット 3』

日々の新聞社／[編] 日々の新聞社 2014.11 LS543.4/H33/1-3

いわき市内で発行されている『日々の新聞』のブックレット3冊目。様々な立場の人たちの震災に関する言葉が綴られています。たとえば、いわき市漁協組合長の、汚染水が流れ出たら漁業は終わり、という言葉。原発の収束作業に関わっている企業会長の、汚染水よりもっと他のリスクに注目すべき、という言葉。それぞれの立場からの率直な意見を掲載しています。

■文学・体験記

『福島、風と木の3年』

丹治博志・丹治智恵子・丹治宏大/著 風と木 2014.12 LS916/T13/1

本書は、福島市でカフェギャラリーを営む一家の、震災以降3年間の記録です。震災当日から綴られた日記の抄録とともに、母と自主避難した孫たちが祖父母・父と重ねた往復書簡や、エッセイが収録されています。心を込めた便りには、離れて暮らしていても、それぞれが相手を大切に思う気持ちがあふれています。そのような家族の暮らしぶりは、いまだ問題が山積する中でも、前を向いて丁寧に過ごすことの大切さを感じさせてくれます。

■メディア・報道・写真集

『デジタル・アーカイブの最前線 知識・文化・感性を消滅させないために』(ブルーボックス B-1904)

時実 象一／著 講談社 2015.2 007.5/㊦152

東日本大震災から4年。テレビ、ラジオ、新聞、インターネットなど様々な媒体で報道されてきた「あの日」を、後世に残し伝えていくにはどうすればいいのか……

その問題へのひとつの答えになるのが、本書で紹介されている「デジタル・アーカイブ」です。

時間とともに消えゆく膨大な知識や情報を電子的に保存しようという、世界各地で行われている様々な活動の方法や乗り越えるべき課題が解説されています。

■復興 防災

『災害と文明』

「災害と文明」取材班/編 潮出版社 2015.3 369.31/㊦153

東日本大震災から何を学ぶべきか。

この本では、各分野の研究者、知識人たちがそれぞれの見地から、どのように災害から立ち直り、どのように災害への備えを拡充していくべきなのか、その糸口を提示してくれています。未曾有の大災害が浮き彫りにした問題に正しく立ち向かい、この経験を私たちの社会を発展させる契機にしなければならないと考えさせられる一冊です。

■復興 防災

『「3 YEARS」復興の現場から、希望と愛を込めて』

本間 勇輝/著 東北復興新聞/編 A-Works 2014.2 369.31/㊦142

「東北復興新聞」は、被災3県（岩手・宮城・福島）の復興に携わる人のための情報誌です。被災地のニーズを踏まえた身近な情報を取材し伝えています。本書は、震災から3年間の取材記録をまとめたもので、各分野で活躍する15人が語る未来への展望が紹介されています。発行人は言います。「東北の復興とかではなく、日本がこれからどう変わっていくかのヒントとなる取り組みがいっぱい起きている。」と。

■こども向け

『原発事故で、生きものたちに何がおこったか。』

永幡 嘉之/写真・文 岩崎書店 2015.2 462/㊦

この書名を聞くと、放射線の影響で突然変異してしまった動物たちの姿を思い浮かべる人が多いかも知れません。しかしこの本の中にはそのような過激な写真や文章はありません。里山の生物たちに起こっている変化とその要因を淡々と、様々な角度から検証しています。放射線だけに留まらない、原発事故がふる里の生物たちに与えてしまった影響を改めて学び、これからの福島の環境について考えてみませんか？

■その他のジャンル

『はじめての福島学』

開沼 博/著 イースト・プレス 2015.3 LS369.31/K59/1

明らかにされたデータをもとに福島を考えることで、漠然とした不安を軽くすることができます。本書は、「復興予算って何円？（2011年以降、5年間で）」、「震災前に福島県で暮らしていた人のうち、県外で暮らしている人の割合はどのくらい？」、「福島県の2013年観光客（=観光客入込数）は、2010年に比べてどのくらい回復している？」など、具体的な数値をもとに解説し、見解を述べています。